

令和7年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立大森第四中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・合唱に意欲的に取り組む生徒が増えた。
- ・鑑賞の学習において、感受したことを文章で表す際の語彙が少しずつ増えている。
- ・毎時間の振り返りを工夫することで、生徒自らが個人の課題に気づけるようになってきている。
- ・ICTを活用することによって、授業で取り扱った音源を教室や家庭でも聴くことができるようにした。

(2) 課題

- ・楽典的な知識が全般的に不足している。
- ・合唱に意欲的に取り組む生徒が多くいる一方で、自分の声に自信がもてず声量が不足してしまう生徒も一定数いる。また、パート練習では課題意識をもって参加できている生徒もいれば、練習に消極的で声量が不足している生徒もいる。
- ・鑑賞において、意欲的ではあるが、楽曲の特徴をまとめ批評文として自分の意見を表現することに抵抗がある生徒が多くいる。
- ・授業への取り組みが受動的になってしまっている部分があるため、自分たちで課題を見つけ、解決できるようにする必要がある。

2 授業改善のポイント

(1) 知識・技能

- ・楽典的な知識は3年間を通して段階的に理解が進むよう、計画的に継続して指導していく。
- ・合唱の音程をとることが苦手な生徒には、個別に声かけやアドバイスをし、自信をもって歌えるようにする。
- ・ICTを活用し、合唱音源等の資料を授業外でも確認できるようにする。

(2) 思考・判断・表現

- ・音楽表現を工夫できるように、歌詞や旋律に目を向けさせ、音楽を形づくる要素と結びつけられるようにする。
- ・意見共有の場を多く設けることで、生徒がお互いにどのような思考をもっているのかを知れるようにする。
- ・鑑賞においては、楽曲を聴く観点を提示するなどして、曲の要素を感じ取ったり批評文にまとめたりしやすくできるようにワークシートを工夫する。

(3) 主体的に授業に取り組む態度

- ・人前で歌うことに慣れるために、お互いの声を聴くことができる機会を多く設定する。
- ・前時からの個人の課題に生徒自らが気付き改善させられるよう、毎時間の振り返りを工夫する。
- ・話し合いの場を設けたり、パートリーダーが中心となって練習を進めたりと、生徒が主体となって活動できるようにする。
- ・アイスブレイクのような活動を取り入れることで、歌唱の活動前に声を出す機会を設ける。